

ご関係者のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

(公社)日本技術士会北陸本部「地区防災講演会」で講演

9月22日(金)(公社)日本技術士会北陸本部と日本防災士会北信越支部連絡協議会は、一昨年度から活動の情報共有や防災技術などの「連携」を進めているところです。

このたび、日本技術士会北陸本部の「第1回新潟地区防災講演会」で防災士制度の成り立ちから新潟県支部の学校防災学習や防災・減災啓発イベントの取り組み。昨年度の県北豪雨での災害ボランティア活動やボランティアセンターへの防災士派遣支援について講演いたしました。

次頁に日本技術士会北陸本部の講演会の全体概要を添付させていただきました。

■概要

日時:令和5年9月22日(金) 講演②14:20~15:00 (40分)

演題:「防災士による日頃の防災・減災活動と災害ボランティア活動」

演者:日本防災士会・新潟県支部 事務局長 成川一正

参加者:43名

防災士の紹介コーナー



災害ボランティア活動の紹介



会場の様子



防災士の活動を語る



第1回新潟地区防災講演会

日時：2023年9月22日(金)13:30~17:15

会場：技術士センタービルⅡ1階 知足ホール

【講演会次第】

1.開会挨拶 北陸本部防災委員長 市村幸晴

2.講演① 「河川堤防の弱点箇所抽出技術について」 北陸本部防災委員会 佐藤 豊

講演② 「防災士による日頃の防災・減災活動と災害ボランティア活動」

日本防災士会・新潟支部事務局長 成川一正

特別講演①「最近の災害対応と防災技術について」 北陸地方整備局統括防災官 齋藤 充

特別講演②「機械学習による斜面の広域危険度評価」 長岡技術科学大学 付属図書館長

技学研究院環境社会基盤系教授 大塚 悟

3.閉会挨拶 北陸本部防災副委員長 野澤英之助

司会：防災委員 高橋博弥

出席者：会場43名 (Web対応なし)

【講演会概要】

講演①の佐藤豊氏は「河川堤防の弱点箇所の抽出技術について」自身の研究成果から、河川堤防は過去から何層も積み上げて築いた土構造物。同一の土質であっても強度、透水性が異なる。堤防の縦横断面のデータベース化が必要。古老から破堤・漏水箇所や旧河道の状況を聞き取り、旧河道の痕跡読み取り、旧河道等の要注意箇所を整理することが重要で、破堤を防ぐには連続した遮水壁を造ることが必要であると提言した。



講演②の成川一正氏は「防災士による日頃の防災・減災活動と災害ボランティア活動」として防災士制度が阪神・淡路大震災の教



訓から2003年10月に創設、2023年8月末現在262,166名が全国各地で防災リーダーとして活躍。新潟県支部は「災害で命を失うことの無い地域社会の実現」、「自治体、大学、防災関連団体と連携した防災力の向上・人材育成」、「被災地支援災害ボランティア活動の実施」を活動方針とし、具体的には「学校防災学習のサポート」、「防災・減災イベント」、「新潟地震を風化させないプロジェクト」、「被災地における災害ボランティア活動」等について説明があった。

特別講演①の齋藤充氏は「最近の災害対応と防災技術について」国土交通省が実施する防災・減災対策として具体的な活動内容を報告し、気象変動



による降雨量の増大に対応するために、従来の総合治水から流域治水の転換として「荒川水系緊急治水対策プロジェクト」を例に、詳しく説明した。また、「東日本大震災の実体験に基づく『災害初動期指揮心得』の紹介があった。

特別講演②の大塚悟教授は「機械学習による斜面の広域危険度評価」として「土砂災害防止法」立法趣旨について斜面災害の特徴と繰り返し



同じ場所で発生している事例を紹介し、危険箇所における乱開発に対応するために、建物構造規制、土地利用規制、建物の移転、避難・誘導・ハザードマップの作製・配布等のソフト対策に特化した法律と説明があった。また、機械学習(AI)を用いた斜面の危険度評価技術では斜面の延長、傾斜度、高さ、形状、遷急線の位置、表土の厚さ、風化状況等から危険ブロックを抽出、事例解析で90%を超える精度を得たと報告した。(文責：防災委員 本間)